

令和6年8月21日



水路記念日企画パネル展を開催します ～海図で見る日本遺産「炭鉄港」～

第一管区海上保安本部では、9月12日の水路記念日にあわせて、9月6日（金）から13日（金）まで、小樽市総合博物館において【海図で見る日本遺産「炭鉄港」】と題したパネル展を開催します。

9月12日は、明治4年(1871年)に、海上保安庁海洋情報部の前身である水路局が兵部省海軍部内へ開設されてから153周年となる水路記念日になります。

例年、第一管区海上保安本部海洋情報部では、水路記念日にあわせて企画展示を開催しておりますが、今回は「海図で見る日本遺産、炭鉄港」と題して、歴代の海図に記載されている明治から昭和の高度成長期にかけて北海道の産業の中核となった「炭鉄」「鉄鋼」「港湾」、それらを繋ぐ「鉄道」の歴史を解説したパネルを展示します。また、近年の海洋情報業務を紹介し、海への関心を深めていただくことを目的として開催します。

1. 展示日時・場所

小樽市総合博物館本館エントランスホール（小樽市手宮1丁目3番6号）

9月6日（金）～13日（金） 午前9時30分～午後5時

（パネル展示会場は無料 火曜休館日）

2. 主な展示物

- ・明治・大正・昭和期に刊行された海図
- ・日本遺産「炭鉄港」に関するパネル
- ・海洋情報業務を紹介したパネル

水路記念日について

明治初期、次々に日本に來航した諸外国の艦船が、日本沿岸の測量を行い、海図を作るなどして日本周辺の地を明らかにしていく事態に、明治政府は国防のみならず海運のために自ら測量して海図を作製することの重要性を認識し、1871年（明治4年）9月12日（旧暦7月28日）に兵部省海軍部に水路局（国の海洋調査機関）を設立し、組織的に我が国独自の海図の作製に取りかかりました。

現在では、海上保安庁がその業務を引き継ぎ、航海安全・海洋権益保全等のための海洋調査のほか、海洋情報の管理・提供も行っています。

海上保安庁では、この水路局の誕生した9月12日を水路記念日としています。

日本遺産とは

日本遺産（Japan Heritage）は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものになります。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけではなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とされています。

炭鉄港ストーリー

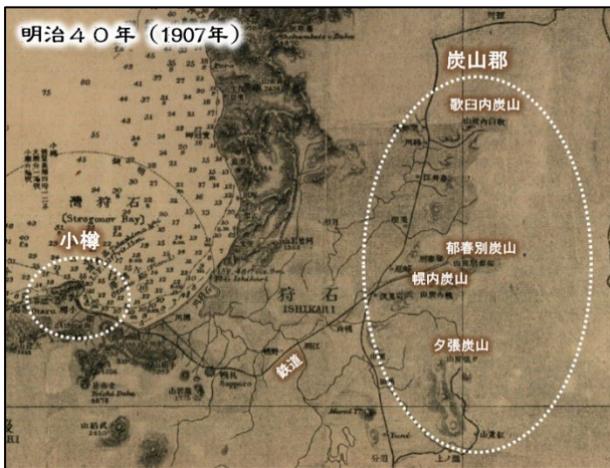
明治初期に「蝦夷地」改め、新たに命名された「北海道」は、昭和の高度成長期までの100年の間に人口が100倍となる急成長を遂げました。

この成長の中核となった産業こそが「石炭」というエネルギー資源で、空知の「炭鉱」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、それらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた歴史が北の産業革命「炭鉄港」の物語（ストーリー）となります。

これら三都（空知、室蘭、小樽）は、約100km圏内に位置し、炭鉱遺産や工場景観、港湾や鉄道施設などが今もなお、歴史をたどる文化財や遺産として存在しています。



令和 5 年パネル展示の様子（小樽市総合博物館エントランスホール）



展示物の例